

新型コロナウイルス感染症の 県内発生について

～第四波の状況～

その8

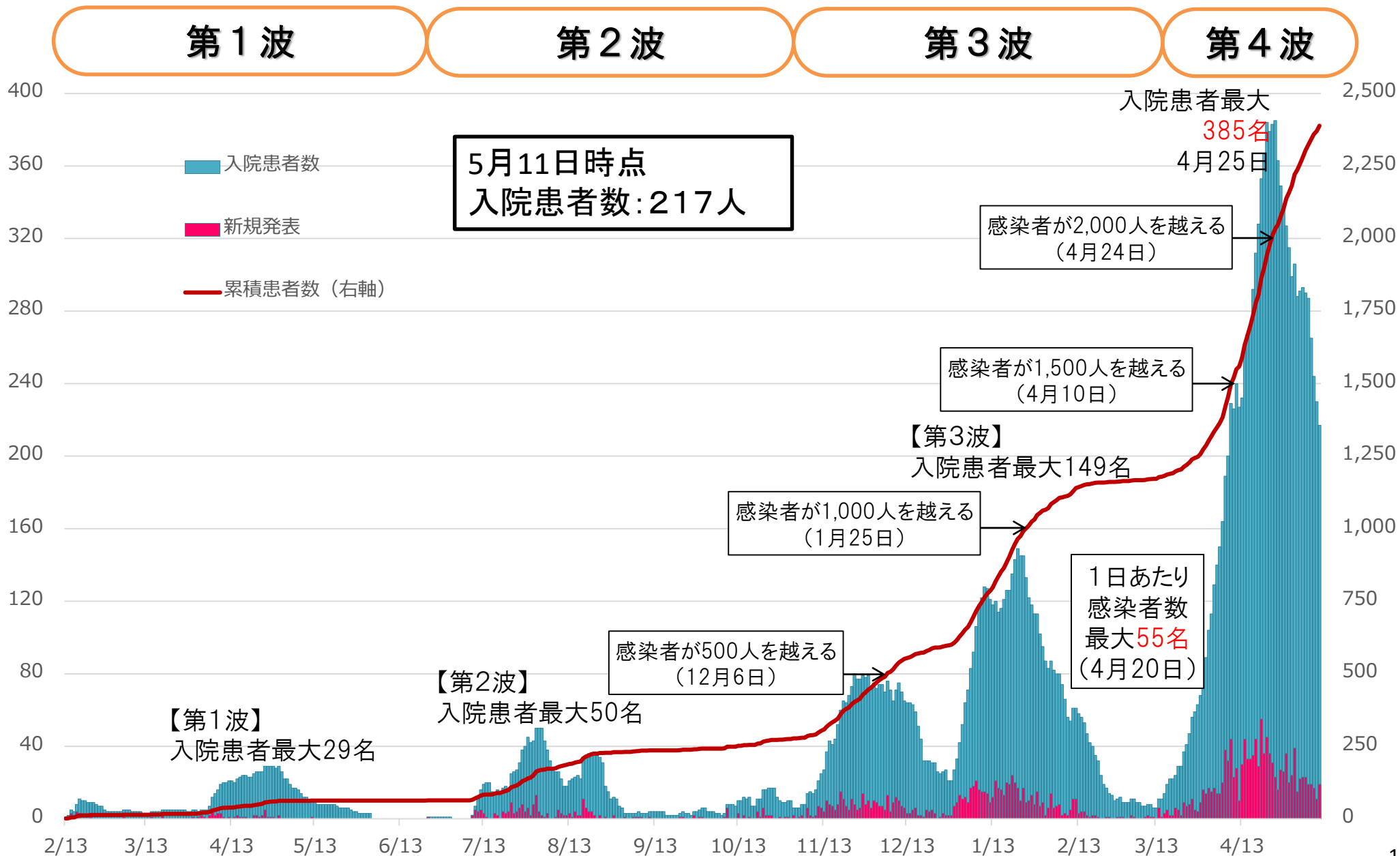
和歌山県福祉保健部技監 野尻 孝子

2021年5月12日

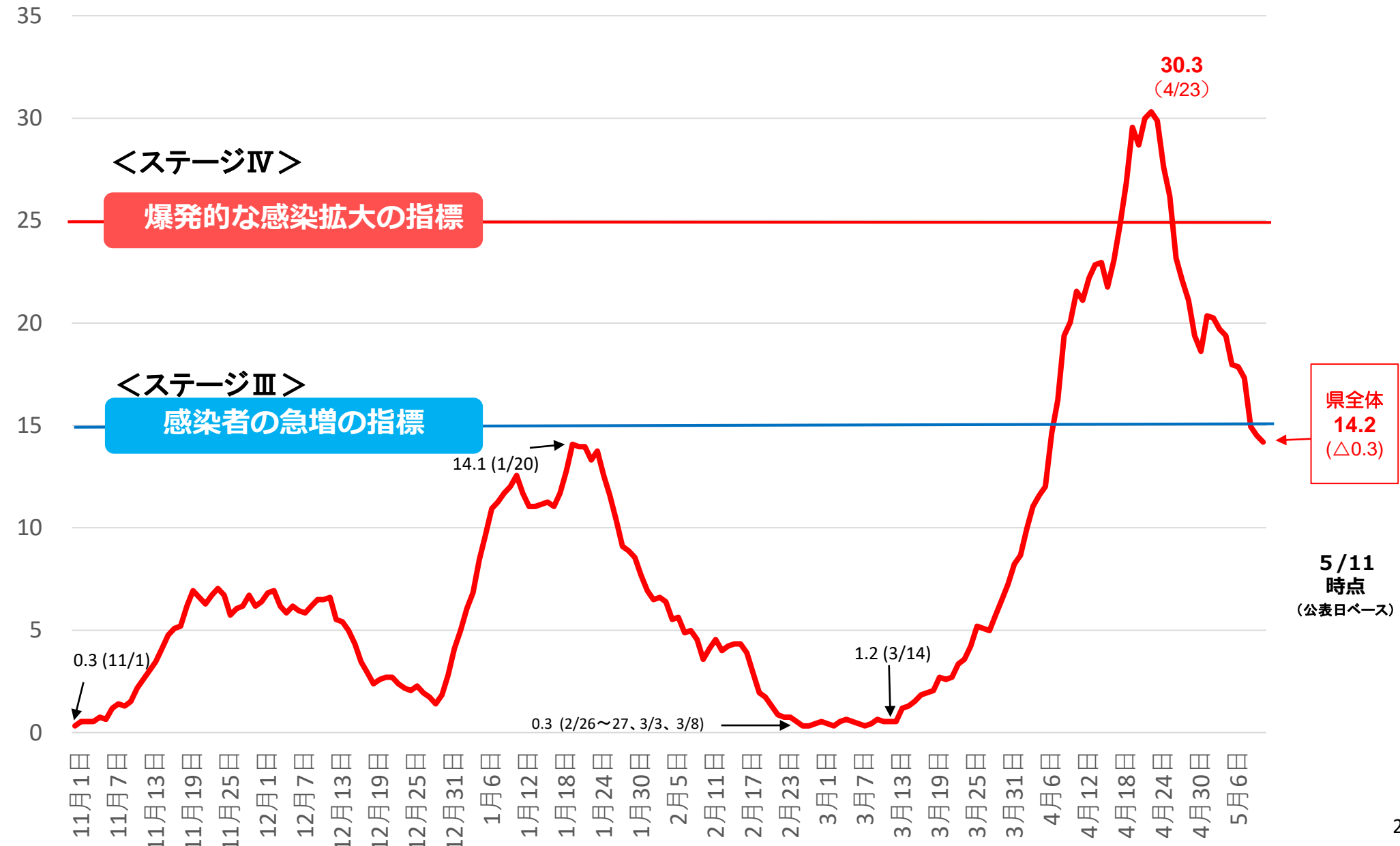


和歌山県内の新型コロナウイルス感染症 感染動向の推移

令和3年5月11日
発表分まで



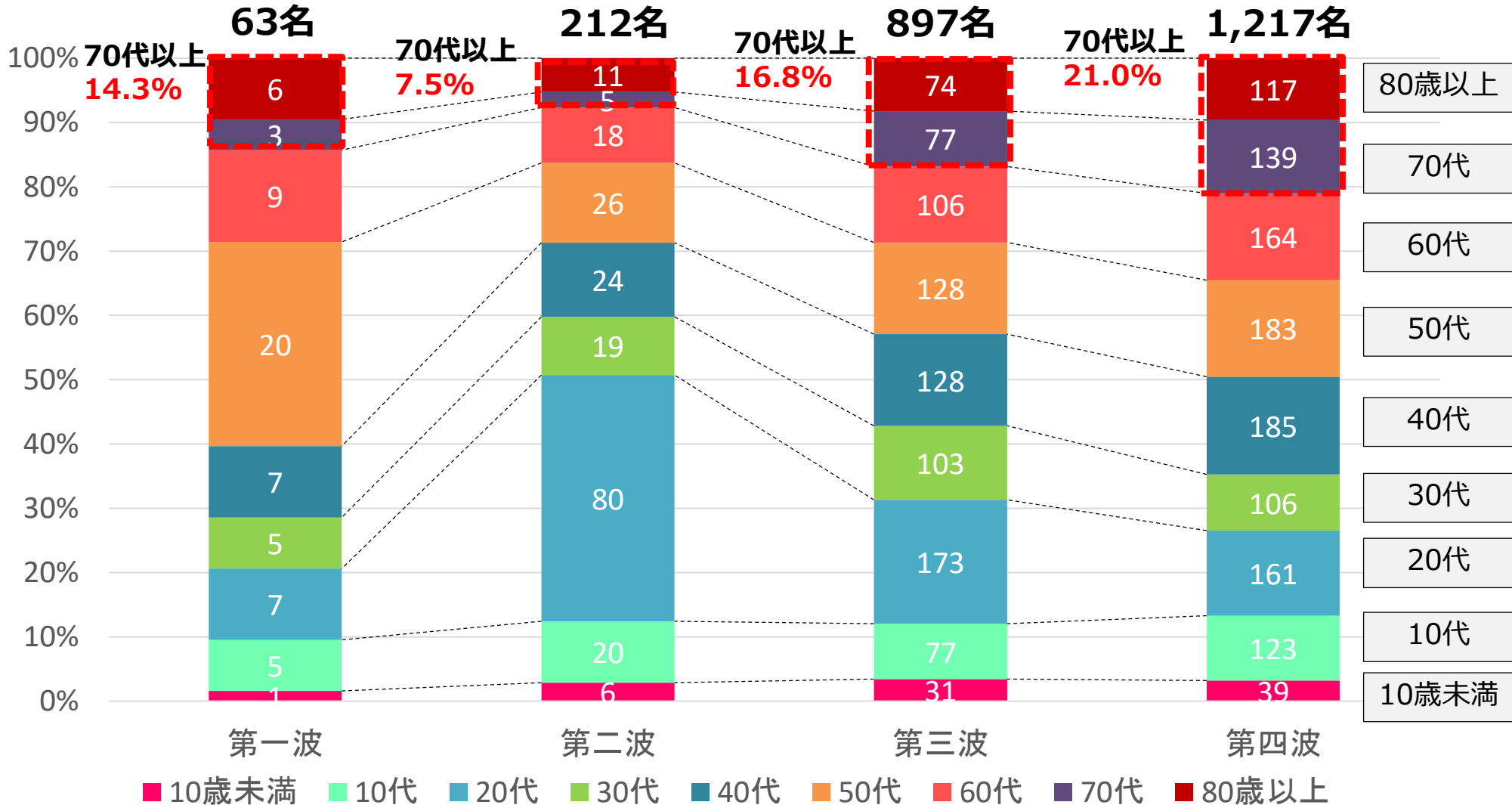
県内の感染者数の推移 (1週間・人口10万人あたり)



県内の年齢別感染者数

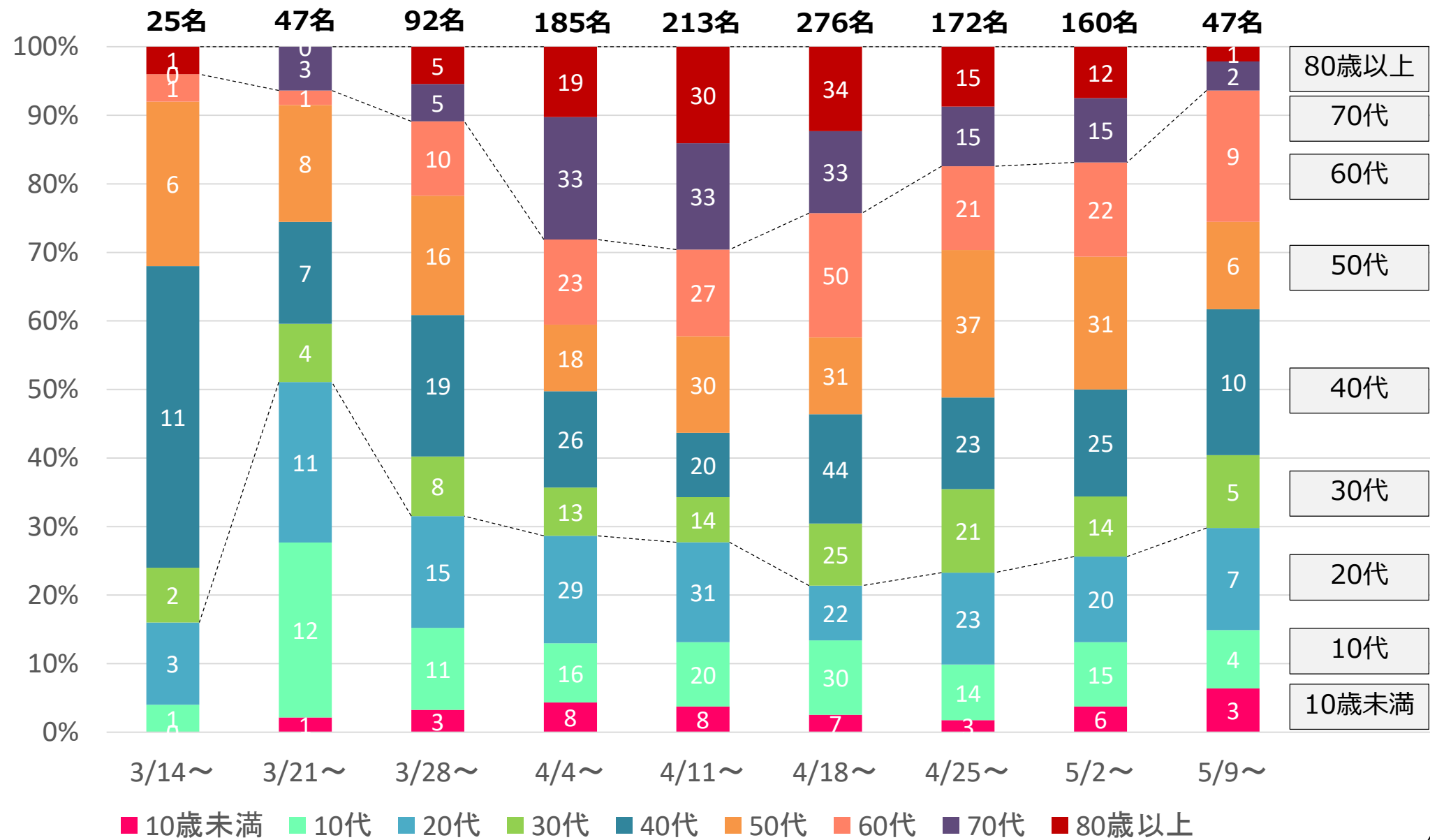
(令和3年5月11日発表分まで)
2,389名

- 第一波では感染者の年代は50・60代が中心であったが、第二波では、20代以下の若者が中心となった。
- 第三波では、全年齢に感染が広がったが、特に高齢者と小児の患者数が増加している。
- 令和3年3月14日から始まった第四波においても、各年代に感染が広がるとともに、高齢者の割合が高くなっている。



県内の第四波の週別年齢別感染者数 (5月11日発表分まで)

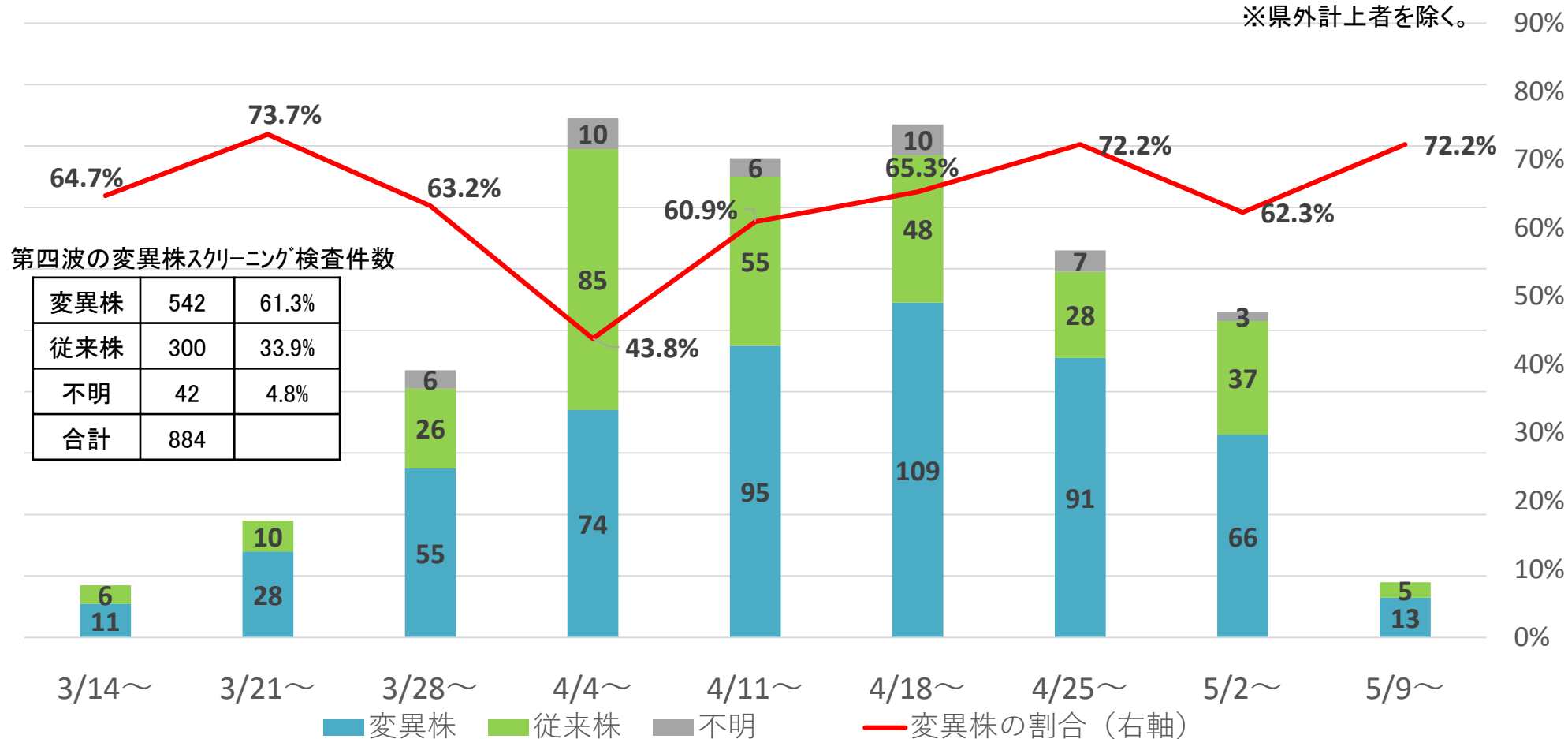
第四波 1, 217名



変異株スクリーニング検査陽性者の発生状況（週次）

（令和3年5月11日発表分まで）

※県外計上者を除く。



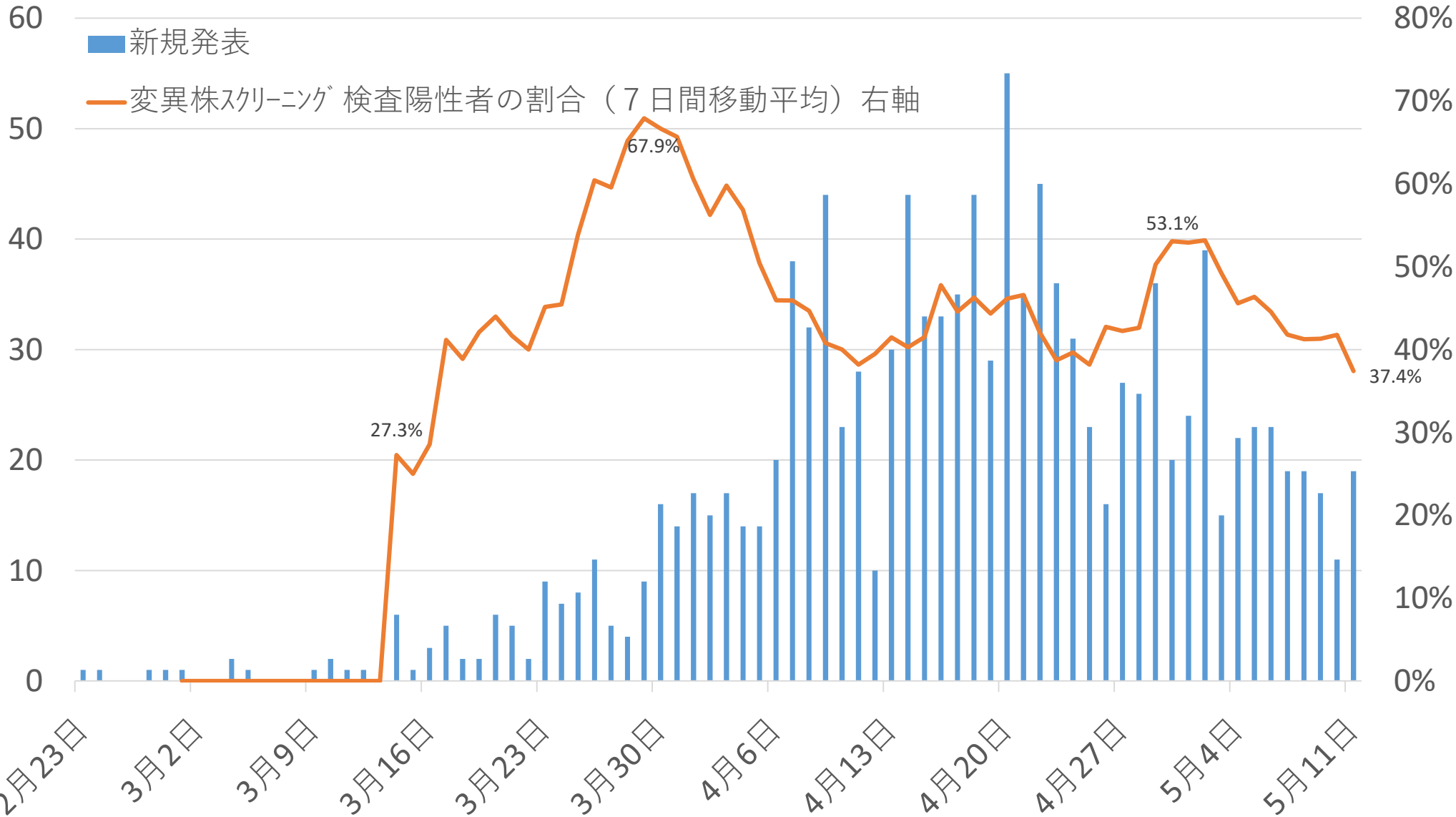
	3/14～	3/21～	3/28～	4/4～	4/11～	4/18～	4/25～	5/2～	5/9～
新規変異株判定数	11	28	55	74	95	109	91	66	13
累積変異株判定数	11	39	94	168	263	372	463	529	542

※PCR陽性判明後に別途変異株スクリーニング検査を行った件数。ただし、4月5日以降は家族等は全例の変異株検査を行っていない。

新規陽性者数と変異株スクリーニング検査陽性者の割合

(令和3年5月11日発表分まで)

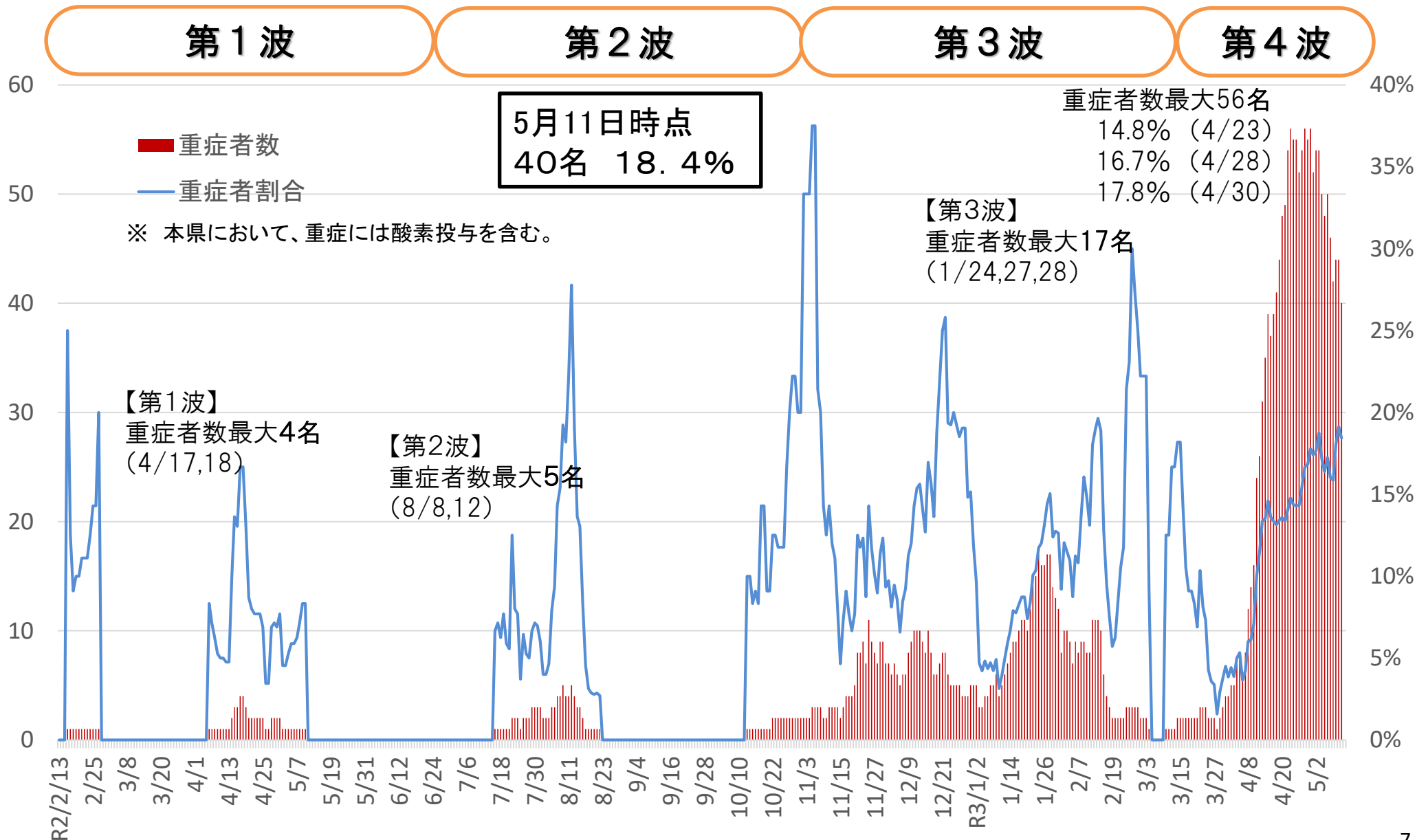
※県外計上者を除く。



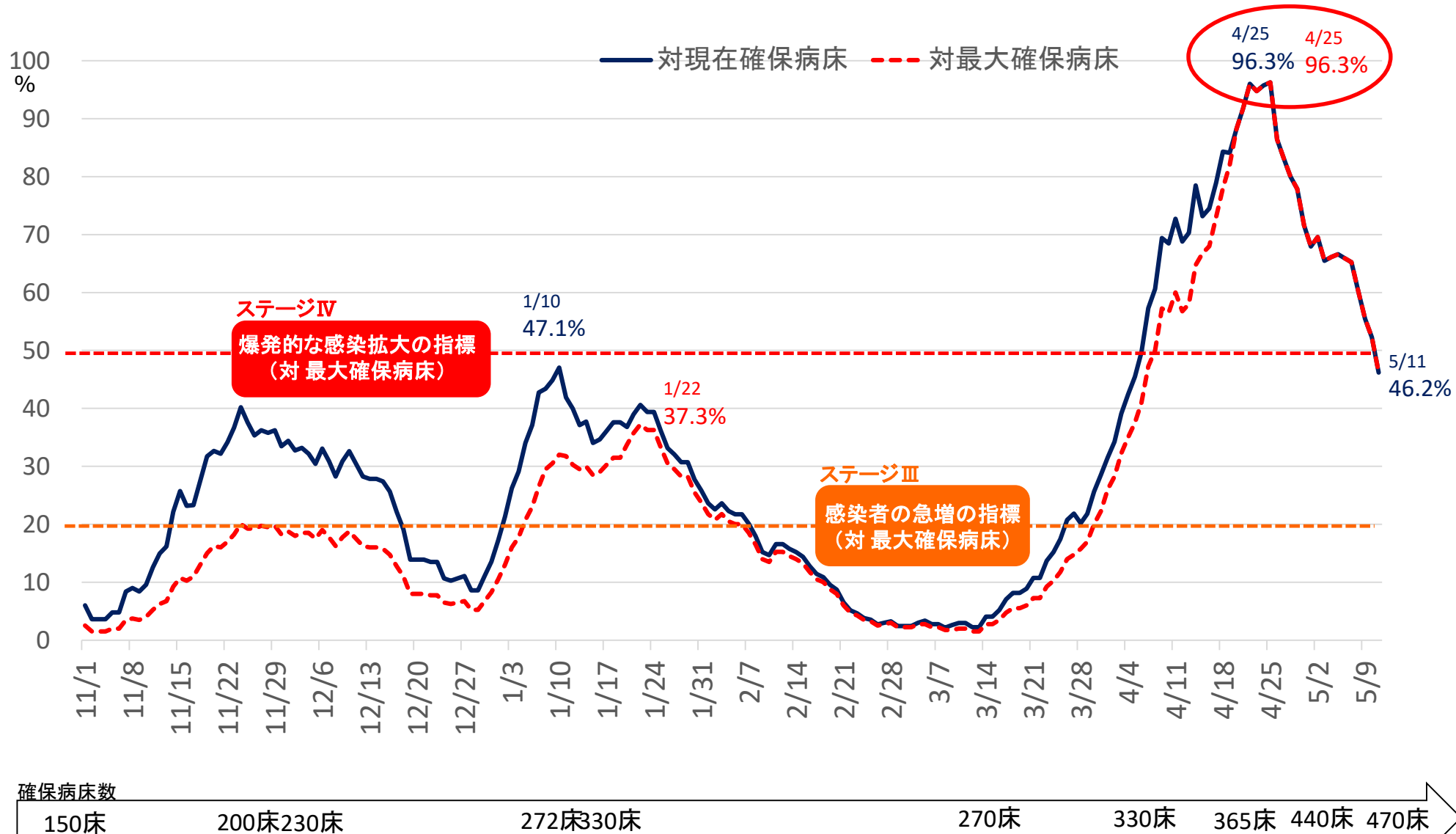
※陽性判明後に別途変異株スクリーニング検査を行うため、陽性判明後すぐの時点では変異株陽性が判明せず、実際より低い数値となる場合がある。6

本県の酸素投与が必要な重症者数及び重症者割合の推移

令和3年5月11日現在



病床利用率の推移



※令和3年4月20日から確保病床数と最大確保病床数が一致。

※最大確保病床は、令和3年4月25日までは400床、4月26日～29日は420床、4月30日以降は440床、5月11日から470床。

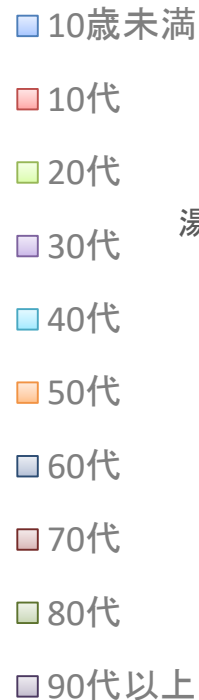
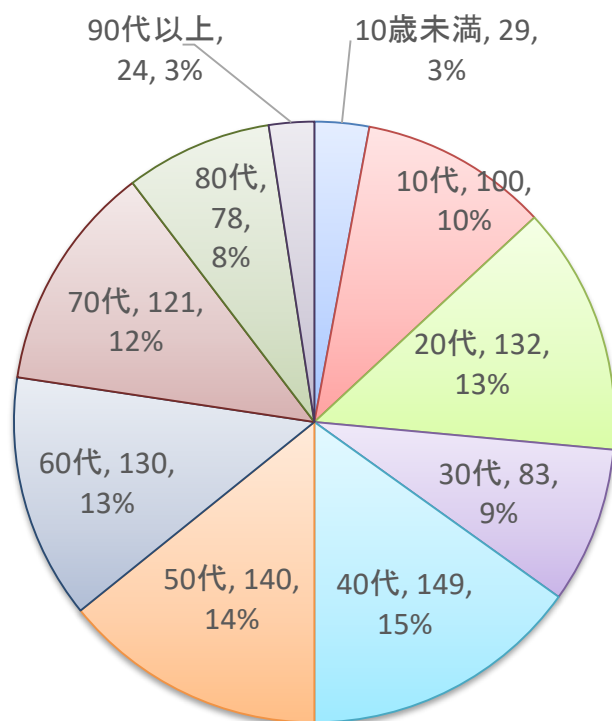
第四波の状況

(令和3年3月14日～4月30日)

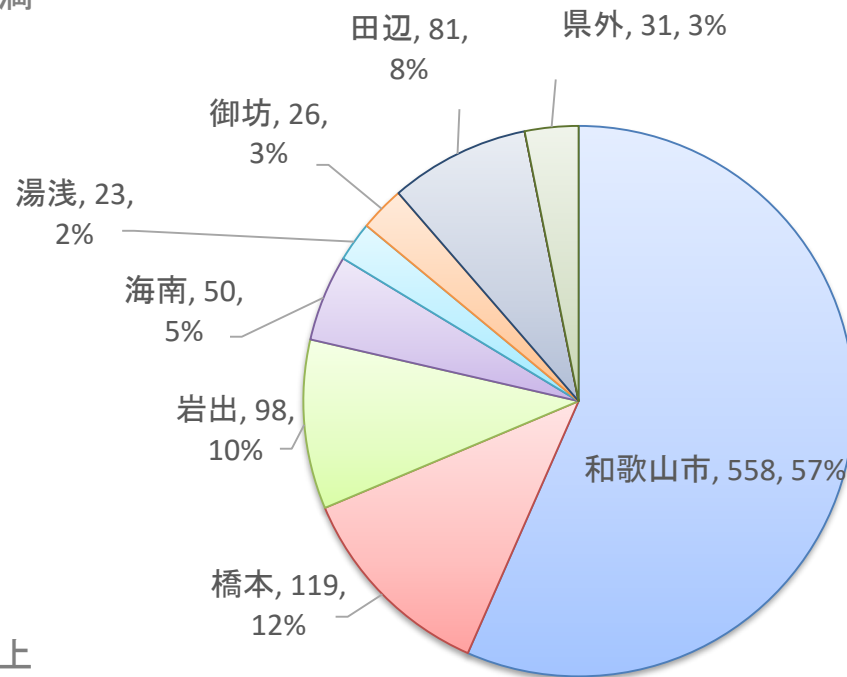
第4波の感染状況 (3/14~4/30) n=986例

- 年代別では、40代が最も多く、40代以下で半数を占めている。70代以上の高齢者は約23%となっている。
- 保健所別感染者数では、和歌山市が最も多く、約6割を占めている。次いで、橋本、岩出、田辺となっている。人口当たりでは、和歌山市が最も多く、次いで橋本、海南、岩出となっている。

① 年代別



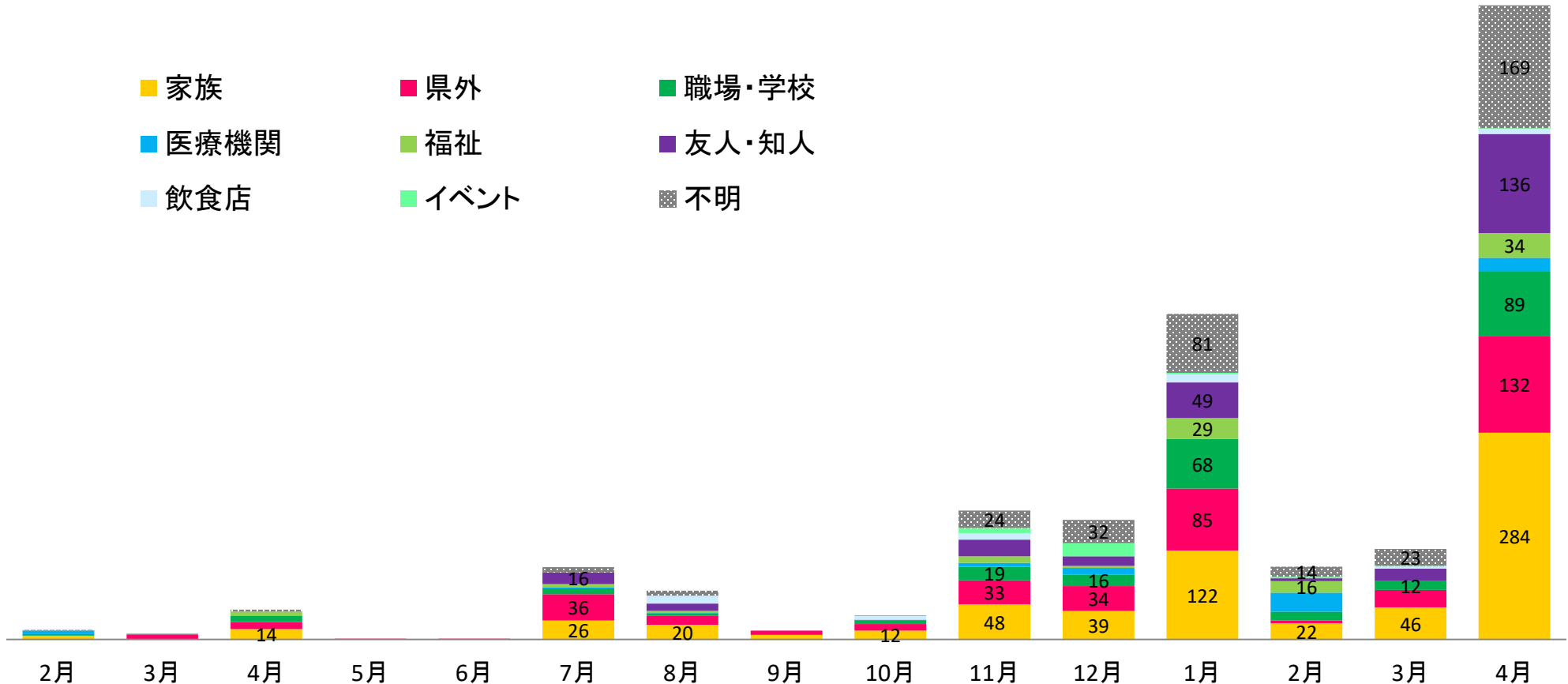
② 保健所別



※県外で計上された数は除く

感染者の推定感染経路 (3/14~4/30) n=986例

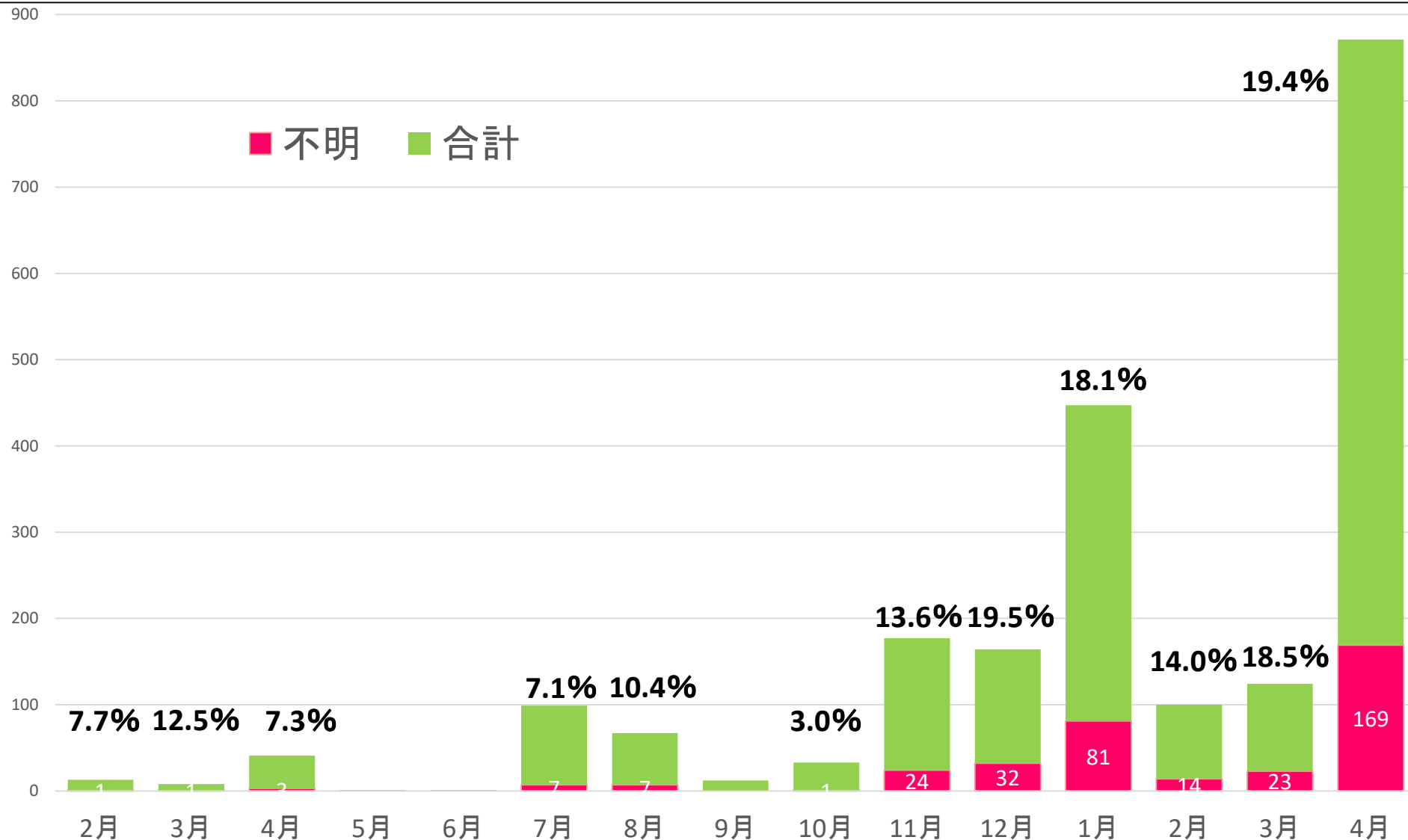
- 本県では、第一波の2月に院内感染で始まり、3月から県外の持ち込みが多くなり、第二波の7月では県外からの持ち込みが最も多くなった。
- 第三波の始まった11月以降では、家族内感染や県外からの持ち込みが多く、また感染経路不明数が増加した。
- 帰省等の影響により、1月に感染者数が増加し、感染経路は家族内感染、次いで県外からの持ち込みが多かった。
- 第四波は3月14日から始まり、4月に感染者数が急増した。4月の感染経路は、家族内感染に次いで感染経路不明が多かった。県外からの持ち込みや友人・知人間との交流による感染も多かった。



※県外で計上された数は除く

感染経路（原因不明の割合）

○ 第三波の始まった11月以降から、徐々に感染経路不明の割合が高くなっている。特に、第四波の4月には感染経路不明の割合は最も高くなっている。

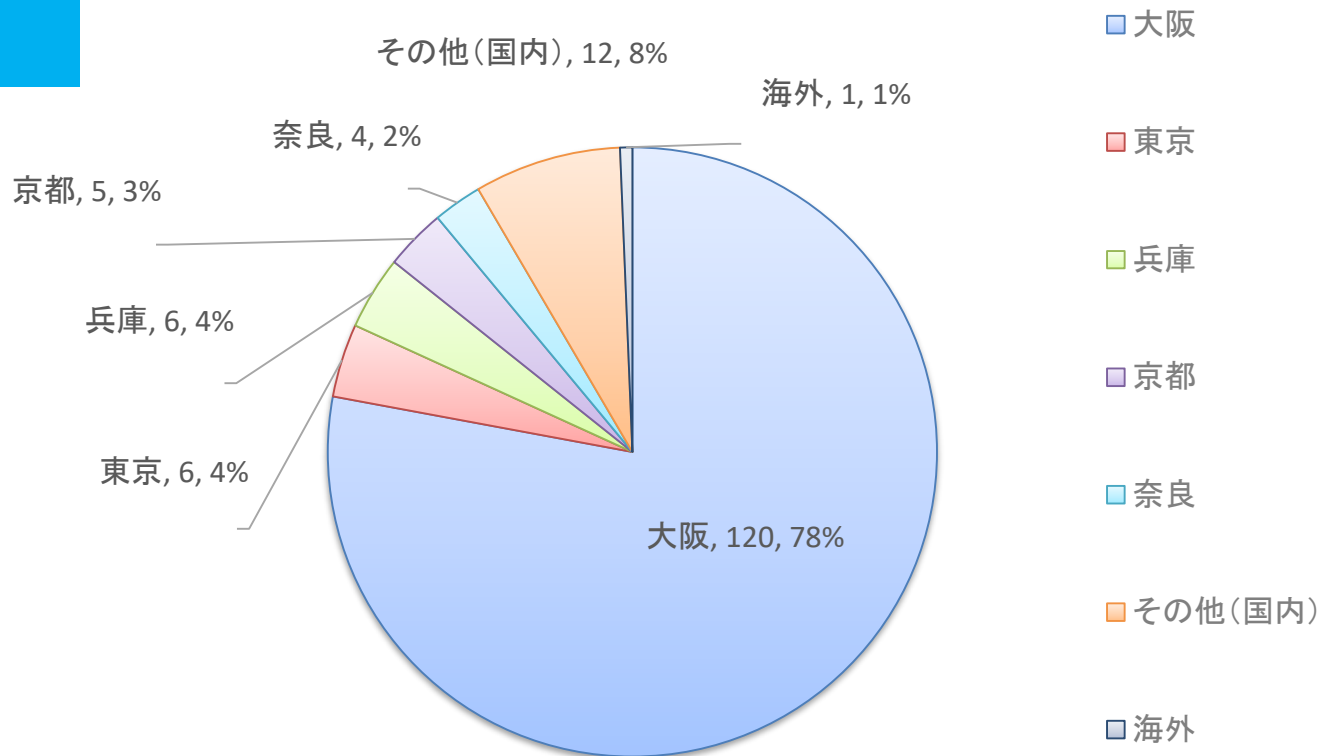


※県外で計上された数は除く

感染者の推定感染経路・県外 (3/14~4/30)

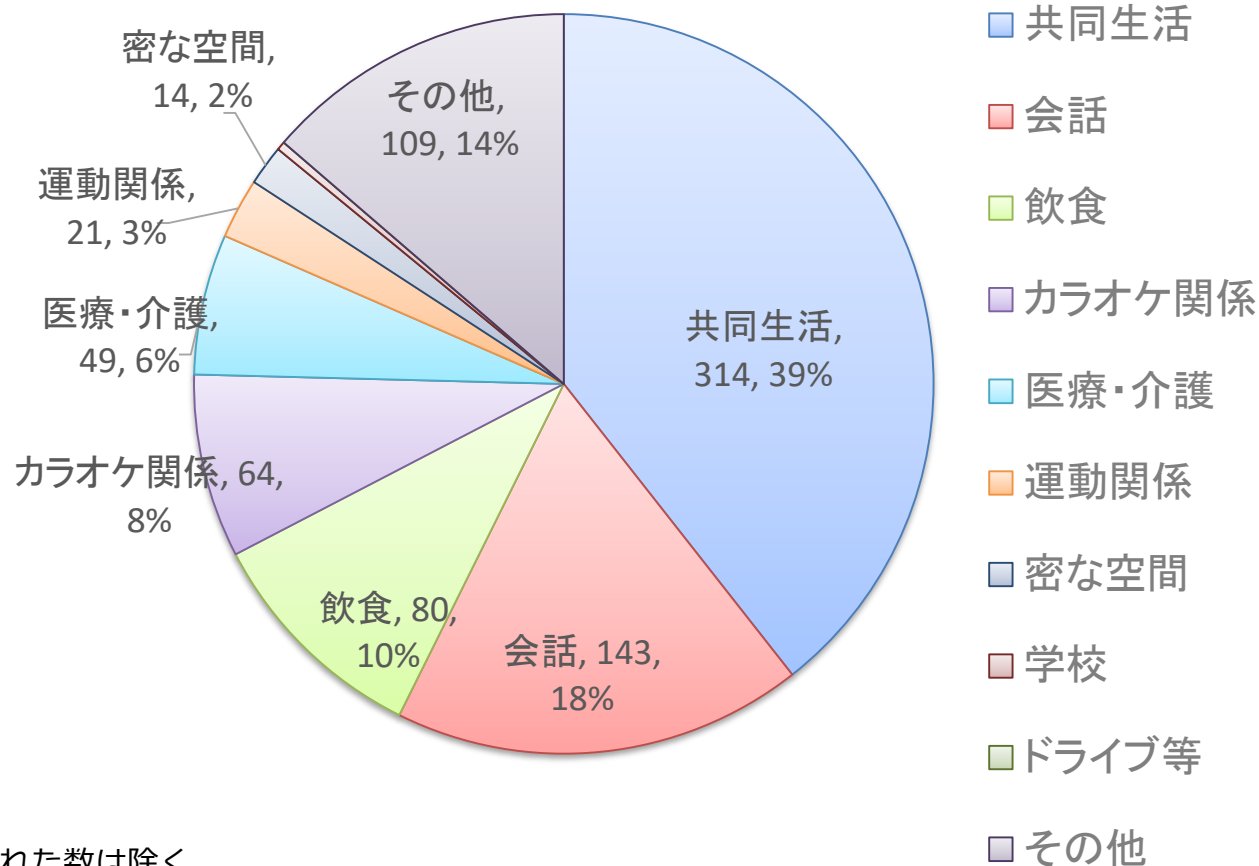
- 県外に行かれて感染したまたは県外の人との接触による感染と推定される者は154例で、全体の約16%であった。
- 都道府県別にみると、大阪が最も多く、120例で県外例の約78%を占めている。次いで、東京、兵庫であり、関西圏が約88%を占めている。また、海外は1例あった。

都道府県別 推定感染経路 「県外」154例



感染者の推定される感染機会 (3/14~4/30) n=797例 (感染源不明189例を除く)

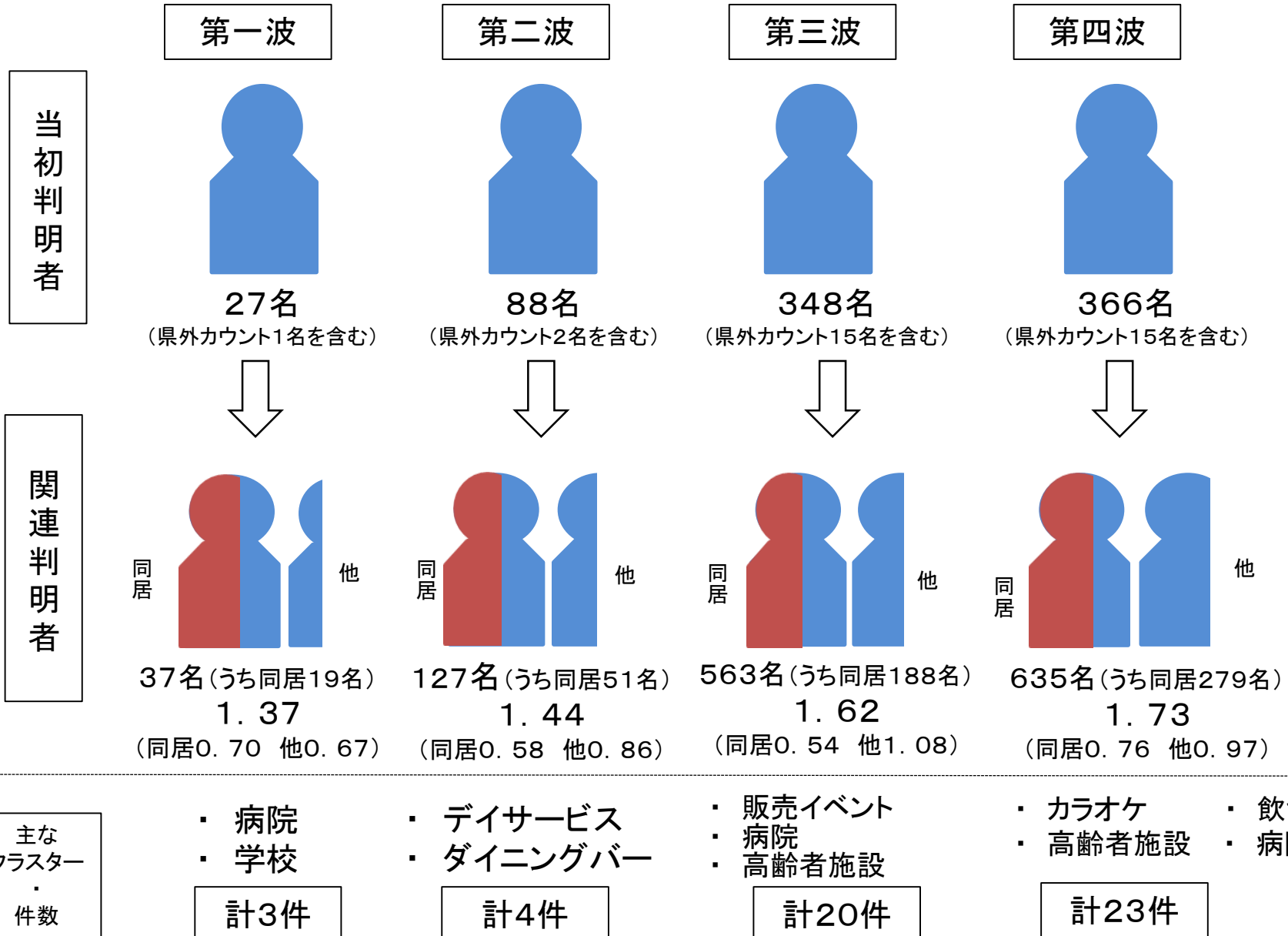
- 第四波が始まった3月14日から4月30日までの県内感染者のうち感染源不明等を除いて推定される主たる感染機会を見た。
- 家族等と同居生活をしている場合が最も多く、次いで会話、カラオケ関係、飲食と続いた。
- 従って、家族（同居）内での共有する空間・場所・物を介する感染予防と飲食時の感染予防に最も注意する必要がある。また、屋内でのマスク着用、ディスタンスの保持、換気が重要である。さらに、カラオケ設備のある飲食店での感染が多く、注意が必要である。



※県外で計上された数は除く

濃厚接触者等の感染状況

(令和3年4月30日時点)



※当初判明者の発表日により分類 14

濃厚接触者等の感染状況（変異株と従来株の比較）

（令和3年4月30日時点）

- 変異株と従来株それぞれに当初判明者からどれだけの感染者が確認されたかをみた。
- 変異株では、同居家族内への感染が従来株より多かった。それ以外の人への感染は従来株の方が多かった。これは、本県では従来株によるクラスターが多発したことによると思われる。

当初判明者

関連判明者

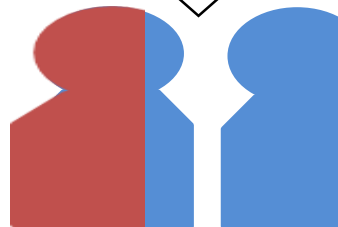
変異株



182名

（県外カウント5名を含む）

同居



他

355名（うち同居171名）

1.95

（同居0.94 他1.01）

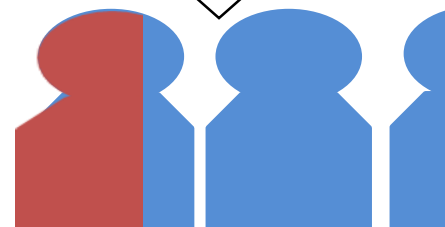
従来株



112名

（県外カウント2名を含む）

同居



他

243名（うち同居90名）

2.17

（同居0.80 他1.37）

株別クラスター

① スナック	バー①	会食	事業所	設 高 ① 高 齢 者 施 設	医療機関	学校	設 高 齢 者 施 設	職場
5人	5人	9人	6人	16人	14人	16人	13人	5人

バー	① カラオケ	食事会①	② カラオケ	③ カラオケ	④ カラオケ	食事会②	スナック	所 介 護 事 業	スナック	医療機関	飲食店①	食事会③	飲食店②
6人	23人	5人	8人	7人	6人	7人	10人	9人	7人	11人	5人	9人	5人

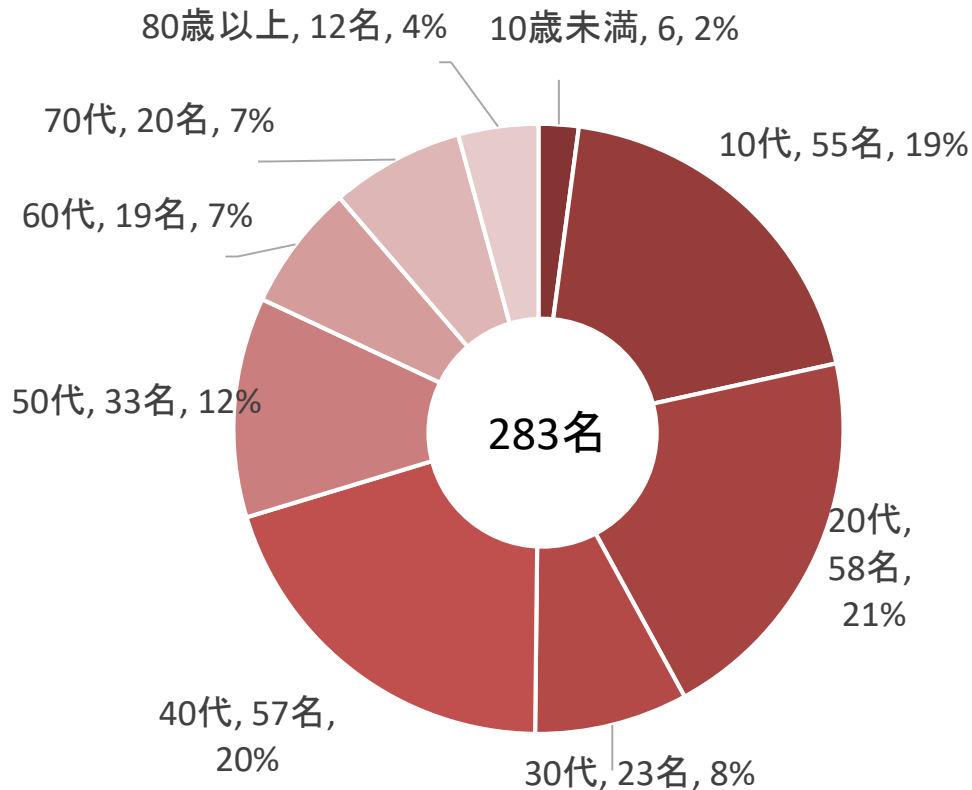
※4/30時点で変異株、従来株が判明しているものを対象 15

変異株と従来株の年齢構成の比較

○ 変異株は県外からの持ち込みされたものであり、活動の活発な年代の若者や県外勤務の働き盛りの年代に多い。従来株はカラオケ関係で感染が拡大したこともあり、中高年に多い。

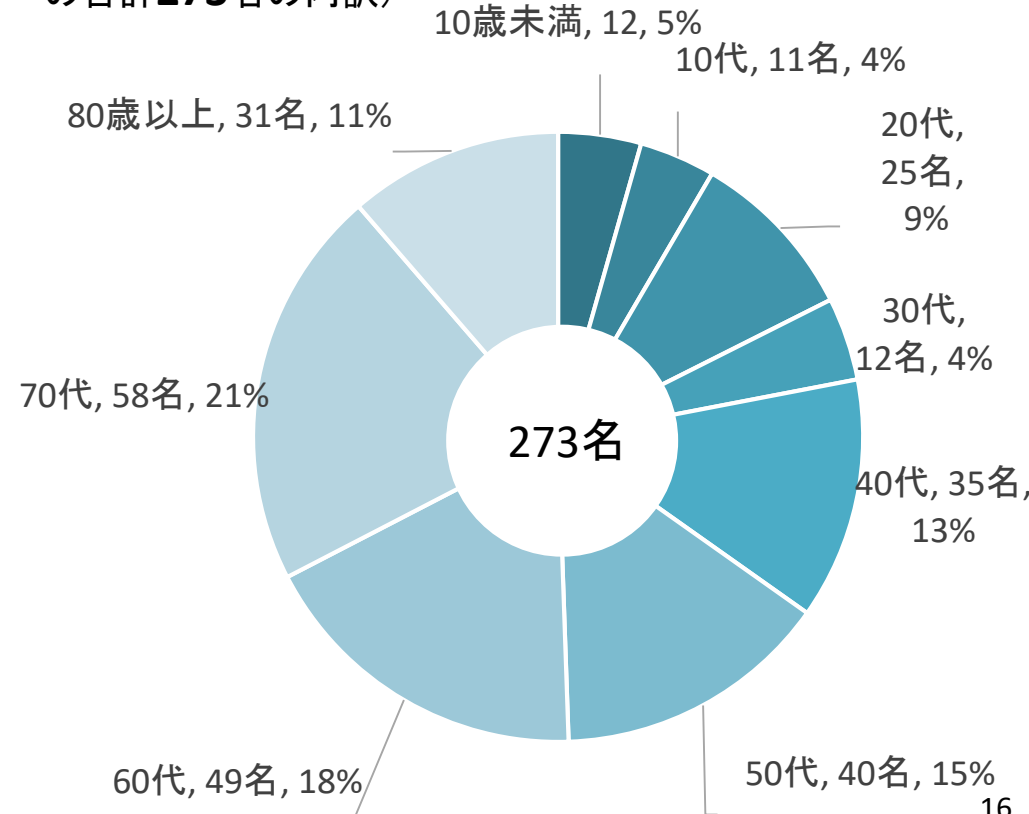
① 変異株

(3月14日から4月30日までに退院又は死亡した陽性者のうち、5月7日までに変異株スクリーニング検査で変異株と判定された**283名**の内訳)



② 従来株

(3月14日から4月30日までに退院又は死亡した陽性者のうち、5月7日までに変異株スクリーニング検査で従来株と判定された者及びその関連の陽性者で同様に従来株であると推定される者の合計**273名**の内訳)



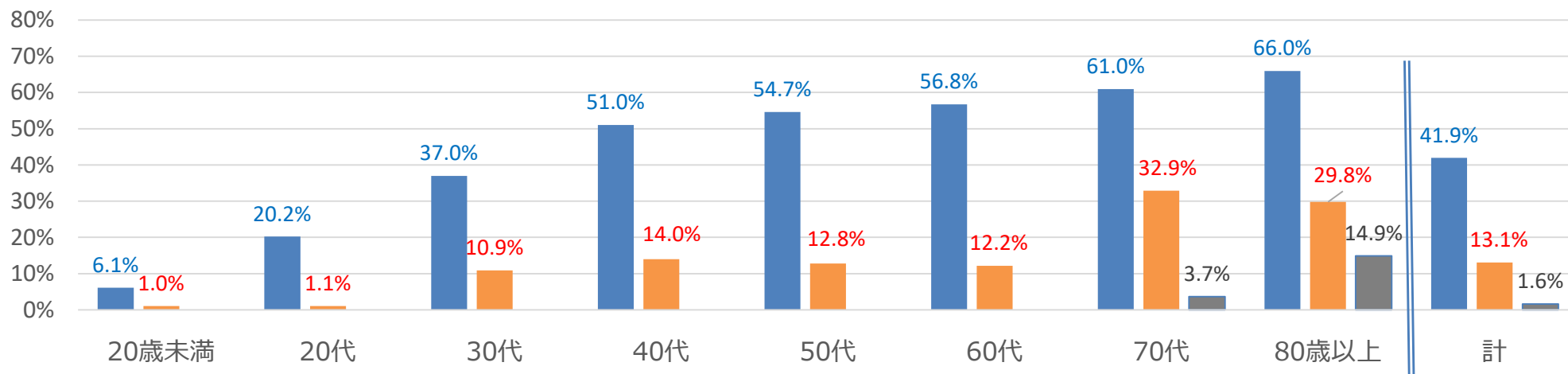
県内の年代別肺炎併発率等重症割合

○ 第四波では、特に若い年代で肺炎の併発率がこれまでより高く、酸素投与が必要な人が多い。

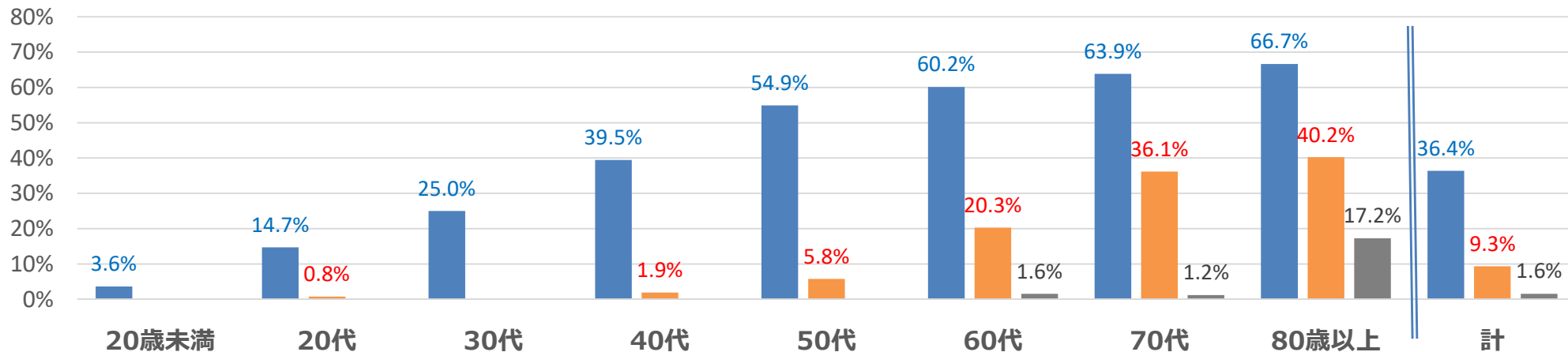
①第4波(令和3年3月14日～

n=627)

※3月14日以降に発表し、4月30日までに退院した陽性者



①第1波～第3波の一部(令和2年2月13日～令和3年2月15日 n=1151)



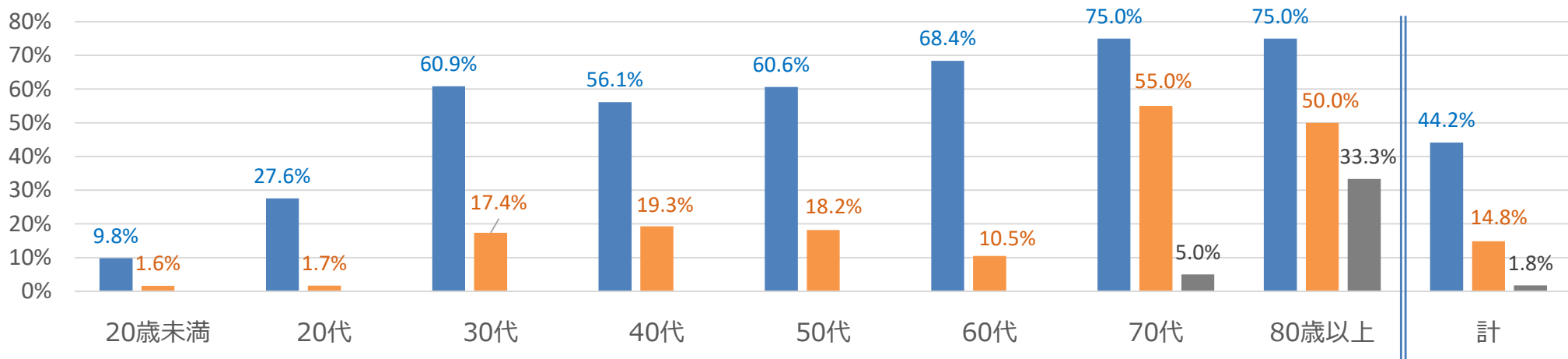
※胸部CT等が一部実施されていないことから実際はこれ以上に肺炎を併発。

■ 肺炎罹患率 ■ 酸素投与率 ■ 致死率

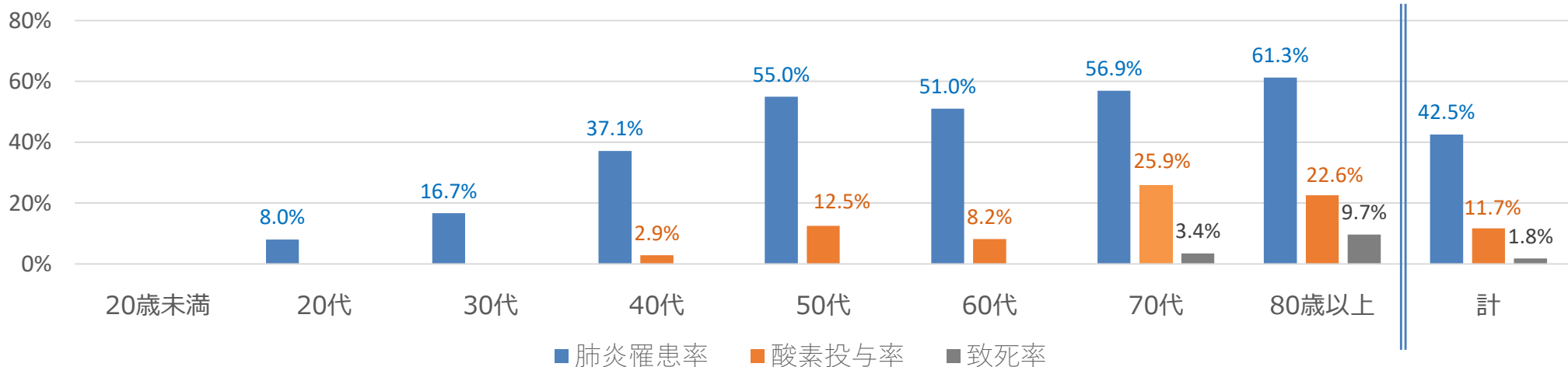
変異株と従来株の年代別肺炎併発率等割合の比較

○ 変異株では全年齢で肺炎の併発率が従来株より高く、若い年代でも酸素投与が必要になっている。

① **変異株** (3月14日から4月30日までに退院陽性者のうち、5月7日までにスクリーニング検査で変異株と判定された**283名**)



② **従来株** (3月14日から4月30日までに退院陽性者のうち、5月7日までに従来株と判定された者及びその関連の陽性者**273名**)



※胸部CT等の検査が一部実施されていないことから実際はこれ以上に肺炎を併発。精査により、以前の公表から数値が変動。

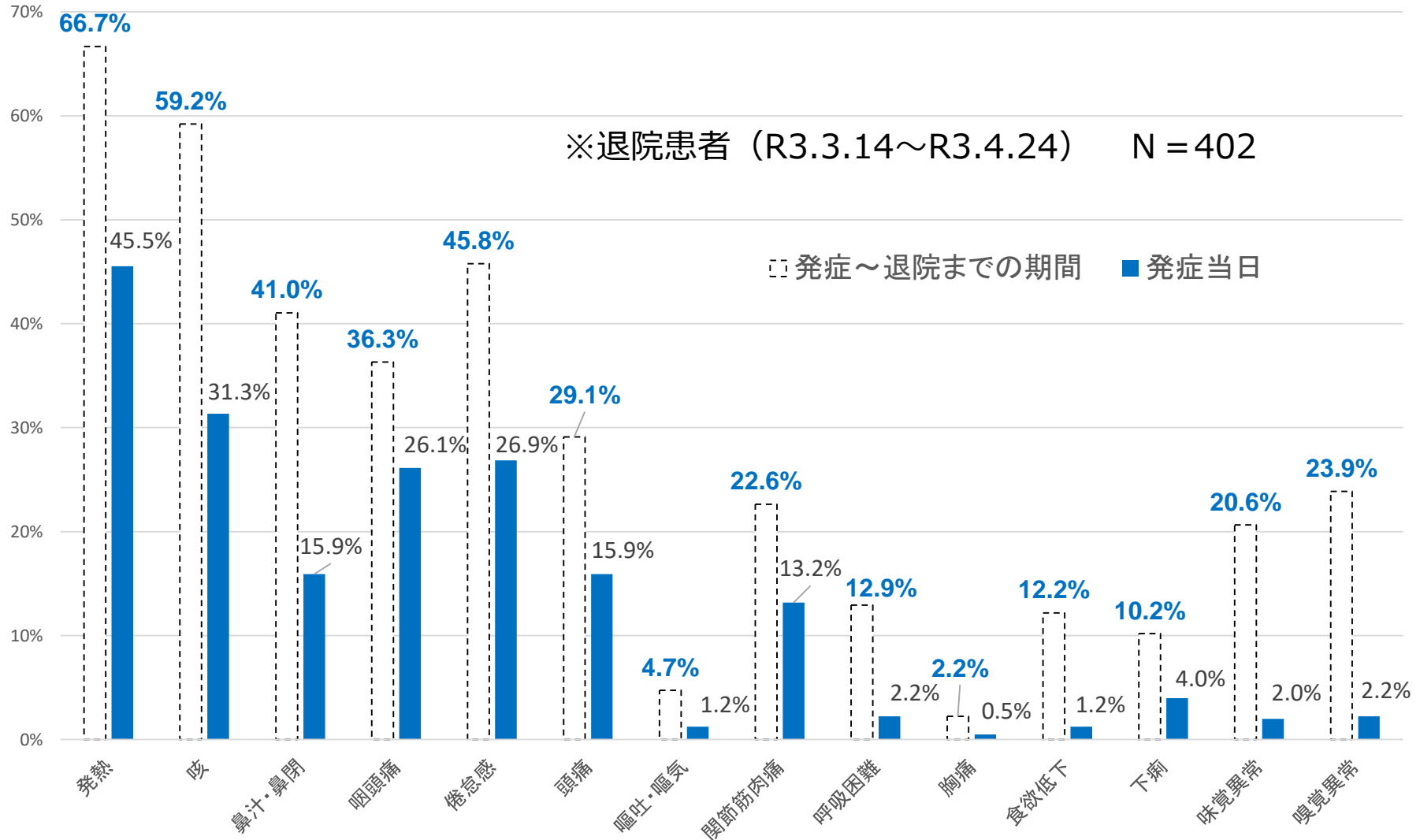
退院患者の陽性判明時症状と入院後症状 (n=642)

○ 陽性判明時無症状であった169人のうち、退院まで無症状のままであった者は86人（約51%）であり、肺炎以上の重症度となったのは49人（約29%）であった。※退院患者（R3.3.14～4.30）

当初症状	入院後症状	合計	乳児	幼児	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	100歳以上	
無症状	無症状	86	1	6	5	21	12	11	6	6	7	8	3			
	軽症	34		1	1	8	6	3	4	5	1	4	1			
	肺炎	重症（酸素投与）	49				2		2	10	9	8	9	7	2	
		重症（ICU）	11				1		1	2	1		2	2	2	
		死亡	0													
		死亡	3											1	2	
		169	1	7	6	31	18	16	20	20	16	21	11	2		
有症状	軽症	249	1	3	4	41	58	18	41	29	24	21	7	2		
	肺炎	重症（酸素投与）	221				4	19	17	43	39	36	41	20	1	1
		重症（ICU）	73					1	4	13	10	10	25	8	1	1
		重症（ICU）	8							1			5	2		
		死亡	4										3		1	
		470	1	3	4	45	77	35	84	68	61	61	27	3	1	
不明	死亡	3											1	2		
	合計	642	2	10	10	76	95	51	104	88	77	82	39	7	1	

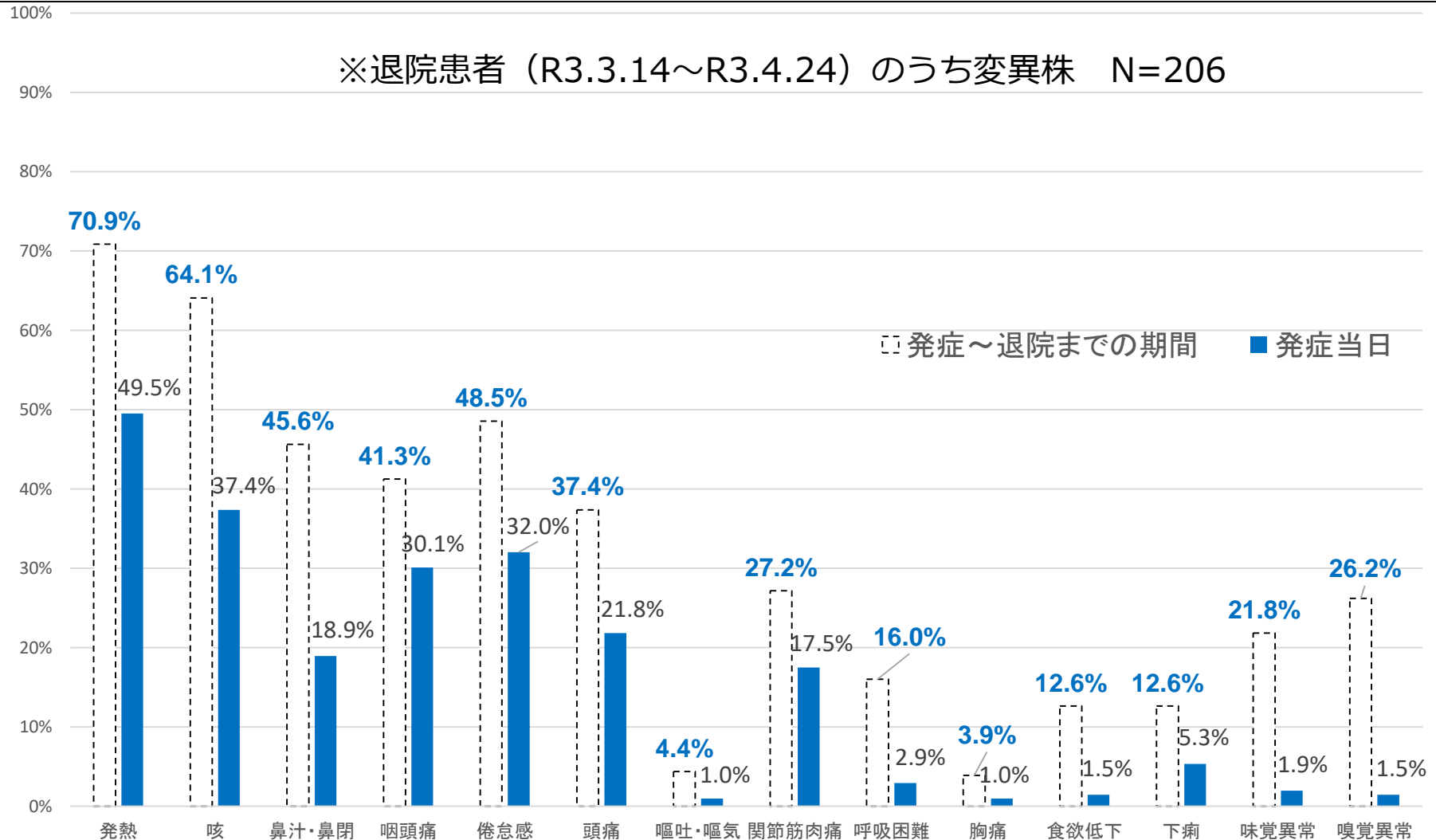
退院患者の初発症状と経過（全体）

- 令和3年3月14日から4月24日までの退院患者の初発症状と入院後の症状について見た。
- 初発症状は、発熱・咳・咽頭痛・倦怠感が多かった。発熱は約半数にあったが、一方、半数は発熱がないことから注意が必要である。入院後には発熱は約7割に見られた。



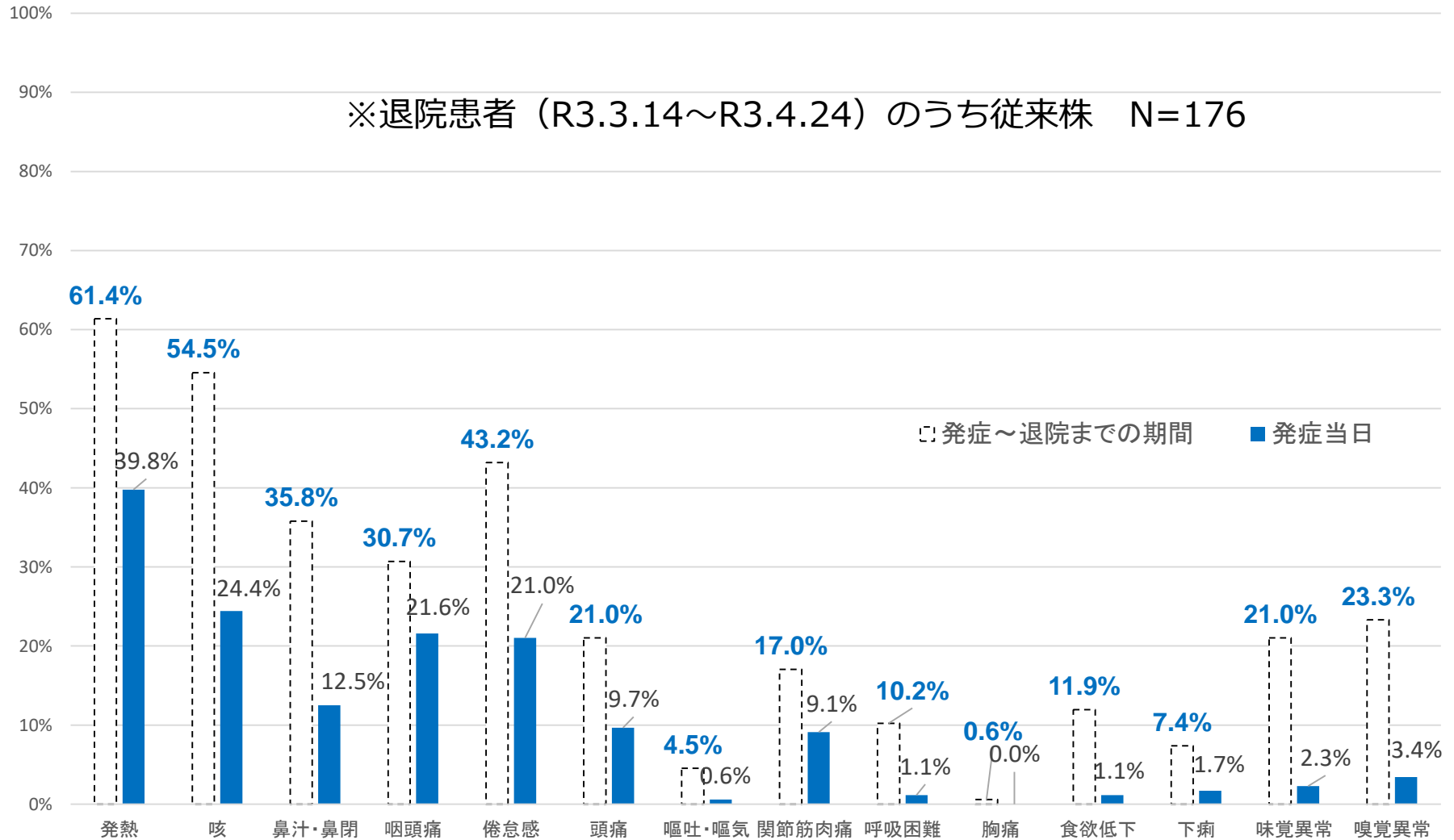
退院患者の初発症状と経過（変異株）

- 変異株の感染者は、次ページに記載する従来株より発熱、咳、全身倦怠感、関節筋肉痛、呼吸困難感、胸痛、食欲低下が初発症状及び入院後の経過においても多く見られた。



退院患者の初発症状と経過（従来株）

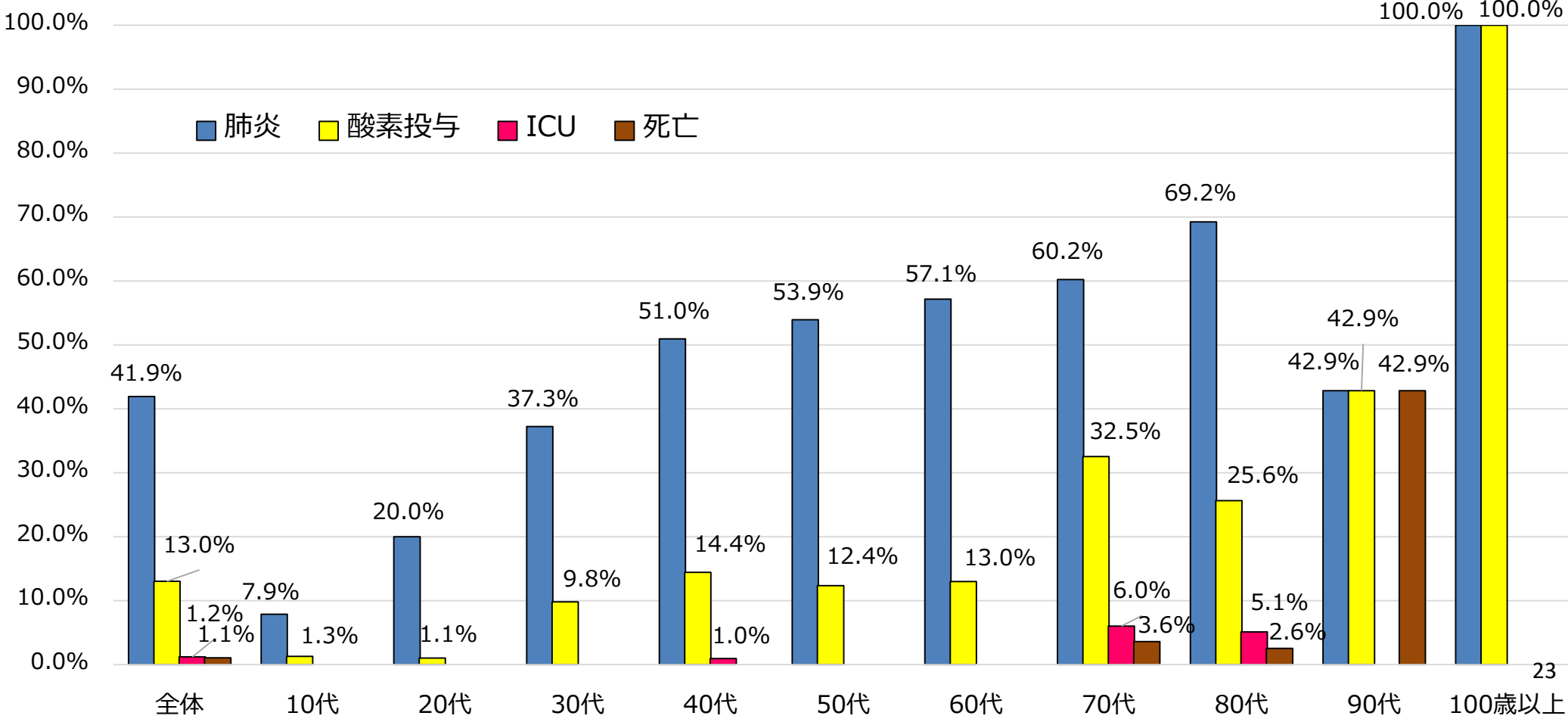
○ 従来株の感染者は、前ページに記載する変異株株より初発症状において、味覚・嗅覚異常が多かった。ただし、入院後の経過においては割合はほとんど同じであった。



年代別 肺炎患者の症状経過 (n=270)

※退院患者 (R3.3.14~R3.4.30)

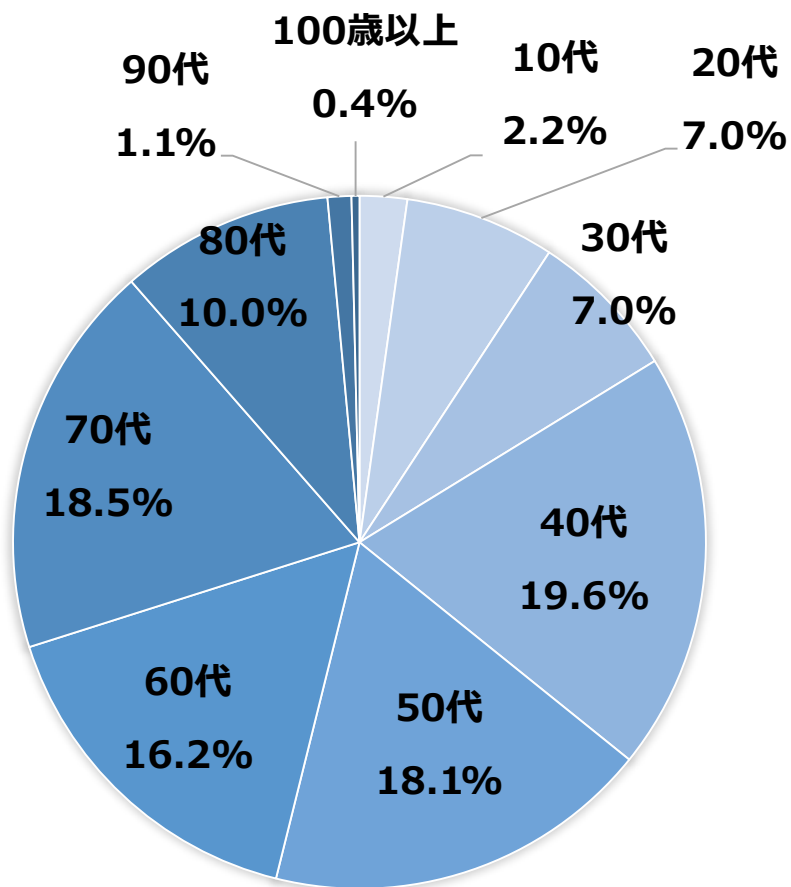
入院後症状		合計	乳児	幼児	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	100歳以上
肺炎		270				6	19	19	53	48	44	50	27	3	1
	重症 (酸素投与)	84				1	1	5	15	11	10	27	10	3	1
	重症 (ICU)	8							1			5	2		
	死亡	7										3	1	3	



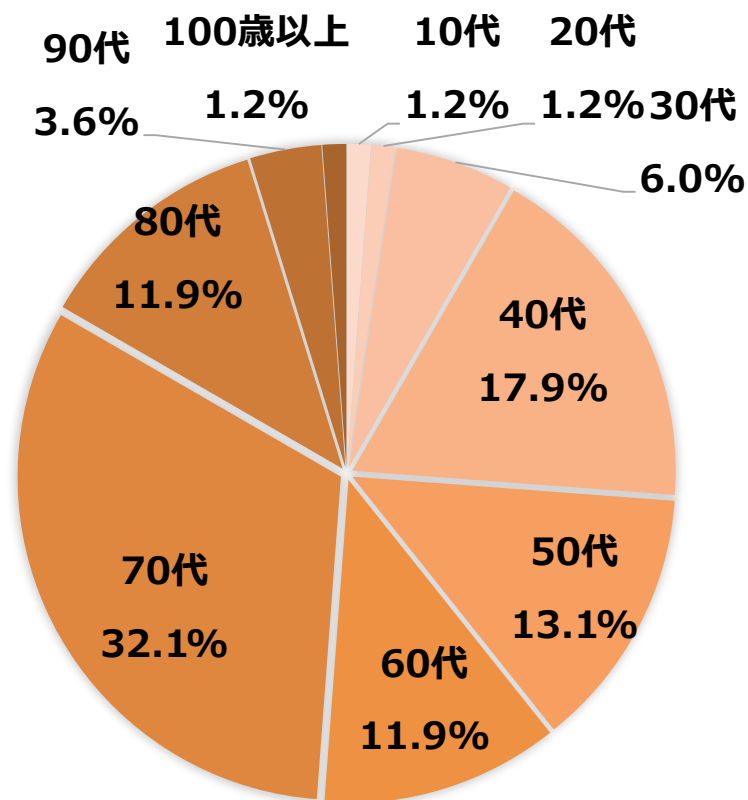
肺炎患者と酸素投与患者の年代別割合

※退院患者 (R3.3.14~R3.4.30)

- 肺炎を併発した感染者の年代別を見ると、40代以上が約84%を占めていた。10代でも肺炎になっていた。
- 肺炎で酸素投与が必要になった人の年代別を見ると、40代以上が約92%を占めていた。10代でも酸素投与が必要になった人がわずかながらいた。



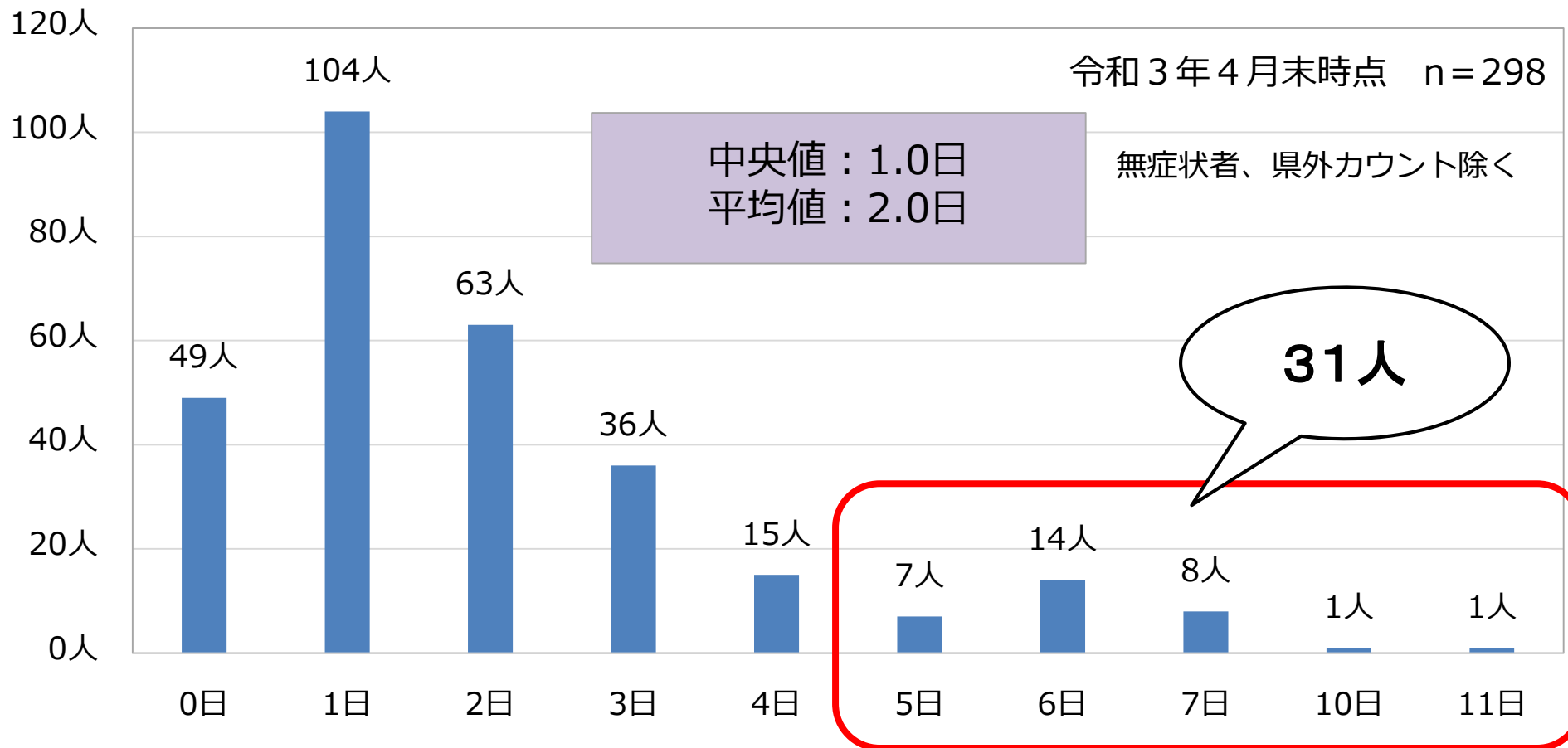
肺炎患者の年代別割合



酸素投与患者の年代別割合

令和3年4月中の新規感染者の発症から受診までの日数 (当初判明者分)

- 発症から医療機関受診までの日数を見ると、発症後1日が最も多かった。
- 約9割の人は発症後4日までに受診していたが、発症後5日以降の受診者が31人いた。最長は発症後11日であった。感染者の治療および感染拡大防止の観点からも早期受診が望まれる。
- 受診が遅い人の特徴としては、70代の高齢者、独居・二世帯が多かった。また、受診が遅い人は入院後、肺炎があり、酸素投与が必要になっている人が多い(次ページ参照)。



令和3年4月中の新規感染者のうち発症から受診まで 5日以上かかった方の属性と症状（当初判明者分）

① 性別

男性	女性
16人	15人

② 職業

無職	パート	会社員	自営業	医療職	学生
<u>10人</u>	7人	6人	4人	2人	2人

③ 年代

	幼児	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	合計
受診まで5日以上	0人	1人	4人	3人	6人	3人	5人	<u>7人</u>	2人	0人	31人
割合		3%	13%	10%	19%	10%	16%	<u>23%</u>	6%		100%
全体	1人	11人	59人	33人	49人	39人	44人	35人	24人	3人	298人
全体に占める割合	0%	4%	20%	11%	16%	13%	15%	12%	8%	1%	100%

④ 同居人数

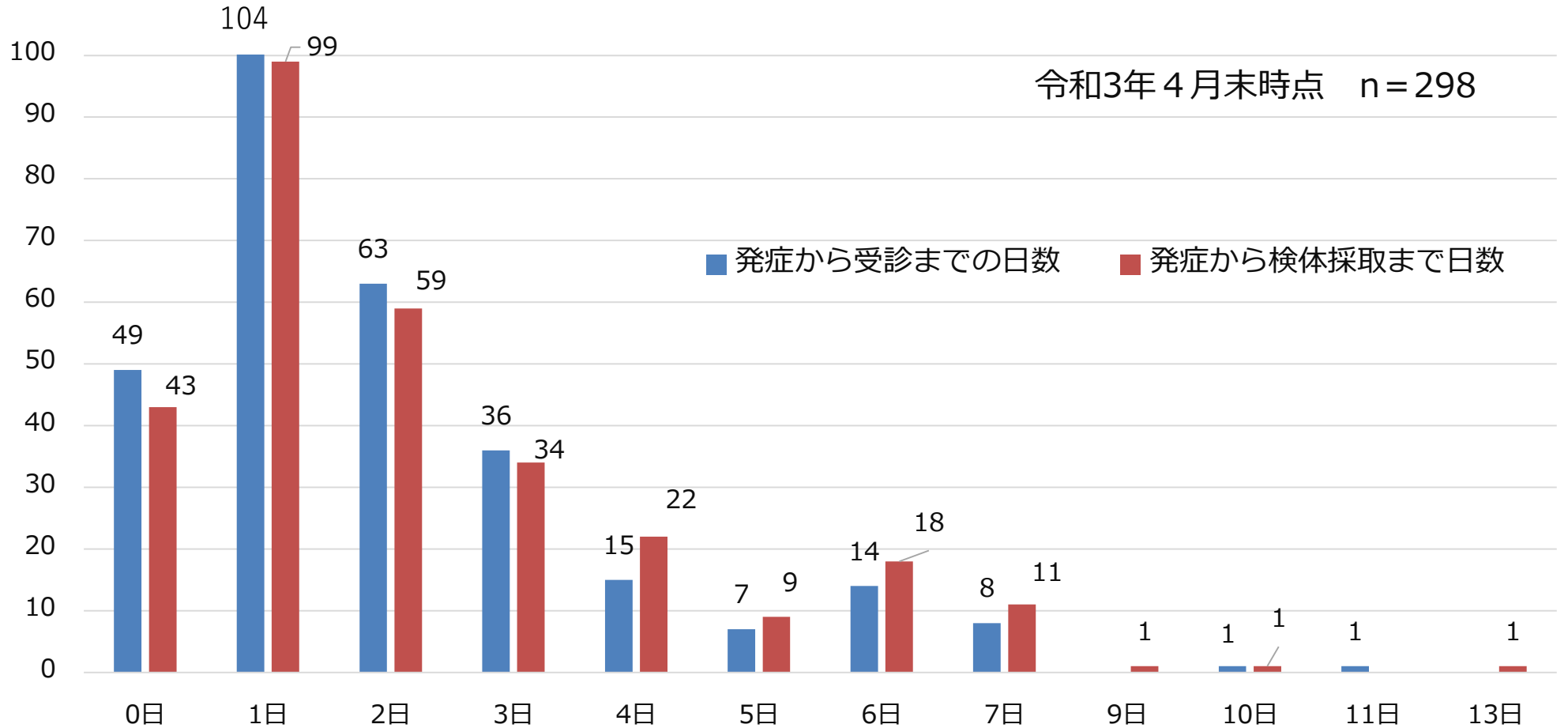
	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	不明	合計
受診まで5日以上	<u>11人</u>	<u>14人</u>	1人	3人	-	2人	-	-	31人
割合	<u>33%</u>	<u>45%</u>	3%	10%		6%			100%
全体	77人	83人	55人	49人	17人	11人	4人	2人	298人
全体に占める割合	26%	28%	18%	16%	6%	4%	1%	1%	100%

⑤ 入院後の症状

肺炎像、酸素投与あり(うち1名はICU)	軽症	治癒
<u>21人</u> (20~30代:3名、40~50代:6名、60代以上:12名)	5人	5人

令和3年4月中の新規感染者の発症から受診、検体採取までの日数 (当初判明者分)

- 受診と検体採取の日数は発症から1日後が最も多い。
- 発症から受診までの日数が3日後までは、受診した人が検体採取される人より多く、せっきやく受診したのに検体採取に至っていなかった。4日後以降では検体採取される人の方が多くなっている。早期受診した人に対する早期検査が必要である。



まとめ

- 令和3年3月14日から始まった本県の第四波は大阪を主とした県外への往来や交流により感染者が急増した。これとともに変異株の感染者が急増し、家族や接触者に感染が急拡大した。
- 感染者の急増により病床使用率が高くなり、また酸素投与が必要な感染者も今まで以上に増加し、4月下旬には医療提供体制がかなり逼迫した状況となったが、その後病床数を増加し、感染者も減少したこともありその状態は緩和されている。
- 感染の機会としては、家族等の共同生活が最も多く、飲食や会話、カラオケによると考えられる事例が多い。また、県外者との接触例と考えられる事例や感染経路不明者も増加しており、市中での感染について引き続き注意する必要がある。
- 変異株スクリーニング検査はPCR陽性例の7割以上に実施しているが、3月14日に初めて確認後、感染者の7割近くが変異株となっており、イギリス型と思われる。変異株は活動の活発な若者から家族や友人等に感染が拡大しており、早期受診、検査による早期発見が重要である。
- 変異株と従来株の年代別の肺炎併発率を見ると、変異株では20代、30代、40代の若い年代でも肺炎の併発率が高く、また酸素投与が必要な感染者が多いことから注意が必要である。
- 第四波ではこれまで以上に濃厚接触者等に二次感染がおこりやすくなっていることが推察される。ただし本県ではカラオケによると考えられる集団感染が発生したことから、変異株と従来株に二次感染等の人数の差は見られなかったが、同居家族では変異株の方が感染しやすいと推察される。
- 最近、1か月間に退院した感染者から見ると、若い世代は無症状で経過する人の割合が高いが、入院時、無症状でも入院後約半数は発症し、3割近くは肺炎を併発するため注意が必要である。
- 引き続き、この難局を乗り切るためには、全ての人が適切な行動をとり、公衆衛生意識を持ち、個々人の感染予防対策の徹底を行うとともに、集団感染をさせないことが極めて重要である。